

モンタナ交換留学報告

環境共生学部 食・健康環境学専攻

置田 真未

私は中学生のときから留学に憧れていました。しかし、英語はどちらかというと苦手な教科であり、食健（食・健康環境学専攻）は毎日忙しくて実際に留学をすることをあきらめていました。大学 2 年の夏休みにトルコに旅行に行ったときに、現地の通訳の人が私たち観光客とトルコ人の間に入って本当に楽しそうに通訳している姿を見て、「他の言語が分かるってそんなに楽しいんだなあ。私もそんな風に他の言葉がわかりたい！」と思いました。そして 2 年生の 11 月くらいに学内の交換留学の掲示を見つけて、だめもとで受けようとして決心しました。

私は英語や文化以外で何をアメリカで学ぼうか？と考えました。私は県立大で食と人体と環境との関わりを勉強しているので、アメリカではどのように学生が栄養学を学んでいるのかを実際に授業を受けてみようかと考えました。そして、日本食の良さを知らうためにホストファミリーや友達に日本食を作って、教えよう決めました。



初めて大学の授業をアメリカ人に混じって受けたときの緊張感とわくわくした気持ちは今でも鮮明に覚えています。日本語が通じる人がクラスには誰もいないし、この授業についていけるのは自分次第なんだ！と実感しました。最初は先生が何を言っているのか宿題が何なのか完璧には理解できず、不安でした。しかし、毎授業後、先生のところ行って、その日の授業内容と宿題の確認を必ずして

いました。そんな態度に先生もみんな協力的に私をバックアップしてくれました。日本では、先生が板書して生徒が黙々とノートに写すという光景を目にしますが、アメリカでは先生と生徒と一緒に意見を交換し、先生と生徒との距離が近い感じがしました。また、アメリカの学生は授業に対して真剣で、遅刻や欠席もほとんどしません。クラスの雰囲気やみんなのやる気が私の勉強に対しての意欲を掻き立ててくれたのだと思います。

前半は英語に慣れるためにリーディング、ライティング、コミュニケーションの授業を中心に履修しましたが、後半は先生にお願いして、自分の専門である **Human Nutrition** と解剖生理学に近い **Fundamental Physical Education** の授業を受けることができました。特に **Human Nutrition** の授業は興味深く、教科書に日本の食品が紹介されるたびに、先生が私に「私より真未が知っているから、教えて！」と急に話しかけられることもしばしばありました。アメリカで健康に良いといわれている緑茶や豆腐について授業で話し合ったり、プレゼンテーションをしたりなど「食」を通してクラスメイトや先生とコミュニケーションできたことは私にとってとてもいい経験でした。他にも私は釣り、ヨガ、合唱、ロッククライミングなど楽しい授業も履修していました。特に、合唱の授業は半年近く 40 名位で練習してきたので、最後の発表会で失敗せずに歌えた感動とみんなで歌うのが最後だと思う気持ちで涙が止まりませんでした。今思うと、私が受けてきた授業すべてに苦しい、楽



しい、難しい、感動などの一言では表せない様々な感情が詰まっています。

私は一人っ子で姉妹と一緒にの部屋に住むという習慣がなく、最初は寮の部屋が狭い1部屋に2人で住むという環境に不安を抱いていました。想像していたより部屋や廊下が狭く、アメリカなのに小さいものがあるのだと驚いていました。しかし、2人部屋は意外に居心地が良く、ルームメイトに活きた英語と

宿題のやり方をよく教えてもらいました。2人でスナックやチキンを食べながら話しをしたり、映画を見ました。寮にはたくさんの学生が住んでおり、いつも賑やかでホームシックには一回もなりませんでした。日本以外に中国、韓国、ブラジル、ドイツ、ギリシャ、イギリス、インドなどたくさんの国から留学生が来ていました。私は特にインドから来た留学生と仲良くなり、宗教上のタブーや食べ物、恋愛、言語などの話題で毎日会話が絶えませんでした。

アメリカ人の友達と一緒にニューヨークに旅行したときお互いの休暇の過ごし方の違いで言い合いになったことがありました。彼女はゆっくり昼まで寝ていたいけど、私は午前中から行きたい所に早く行きたい、という違いです。アメリカ人の思ったことははっきり言う気質と日本人の気を遣って言いたいことを言わない気質も喧嘩の原因にありました。2人で意見を言ったあと、解決方法を考えて、今まで以上に仲良くなったとおもいます。アメリカ生活で改めて文化の違いは大きいなと実感したことはありましたが、一番大事なのはお互いに違う文化を認めて、お互い納得する方法を考え認め合うことだと思います。

アメリカでの生活は語学や勉強だけでなく、コミュニケーション能力や精神面でも成長したのではないかと思います。それは先生、友達、ホストファミリーだけでなく、スーパーのレジのおばちゃんやカフェの店員さんなど様々な場所で知らない人と話すことでも培われたのではないかと思います。私の場合、会話だけでなく日本食を一緒に作ったり、食べたりすることでも楽しくコミュニケーションができたと思います。「食」は言語を超えての新しいコミュニケーションだと実感しました。また、自分で旅の計画をたてたり、知らないところを行ったり、分からなかったら人に尋ねたり電話することで度胸もできたと思います。



この留学を通して、たくさんの人と出会い、かけがえのない友達もでき、素晴らしい経験ができました。この留学で私を支えてくださった方々に本当に感謝しています。両親はもちろん、大学、お世話をして下さった柿原さん、一緒に10ヶ月を共にした松下さんと本田さん、食健の先生方、友達、そしてホストファミリー、本当にたくさんの人の協力で私はかけがえのない10ヶ月を過ごすことができたのだと思います。私がしてもらったように、私もいつか誰かのために何かできたらいいなと思います。これからも出会いを大事にしていこうと思います。